

環境についての約束

循環型社会の構築に向けた資源の有効活用

廃棄物の増加を抑え、限られた資源を有効に活用する「循環型社会」の構築が重要な課題となっています。廃棄物の抑制や包装資材の使用削減に努めるとともに、さまざまな新しいリサイクルの仕組みづくりを進め、限りある資源の有効活用に取り組んでいます。

廃棄物の削減とリサイクルの推進

廃棄物

	単位	2013年度	2014年度	2015年度
廃棄物量(リサイクル率)	トン	130,816	131,787	138,568
	%	66.0	66.7	65.8
食品廃棄物のリサイクル率	%	47.5	50.1	51.2

廃棄物の適正処理徹底のために

廃棄物の適正な処理のためには、廃棄物を排出するたびに廃棄物の名称や数量、運搬業者名・処分業者名などを記入し、廃棄物の流れを把握できるようになっている「マニフェスト（産業廃棄物管理票）」の管理が非常に重要です。2011年度からは、効率的で透明性の高いマニフェスト管理の

ために、電子マニフェストを導入しました。一部の電子マニフェスト未導入の店舗に関しては、総務マネジャーがマニフェストの確認・保管・交付状況を報告する仕組みにし、厳格に管理しています。

食品リサイクルの推進

食品の売上高が全体の5割近く占めており、食品リサイクルの向上には特に力を入れて取り組んでいます。

18店舗に「生物分解型生ごみ処理機」を導入しています。繊維質が多いなどリサイクルに向かな

い生ごみを微生物の力で水とCO₂に分解します。

焼却処分に比べてCO₂発生量を低減できます。また、水とCO₂に分解されて消滅するため、ごみの減量化にも効果があります。

環境についての約束

循環型食品リサイクル「セブンファーム」の取り組み

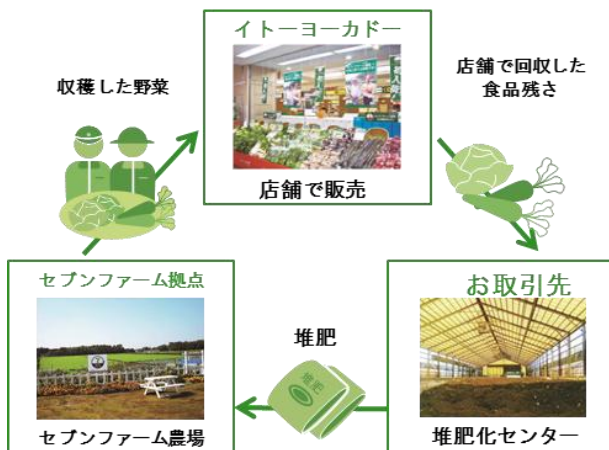
店舗から出る商品残さの有効活用と、地域農業の活性化を目的に、2008年8月に農業生産法人「㈱セブンファーム富里」を設立しました。以後、地域ごとに最適な法人形態（農業生産法人もしくは事業会社）を設立し、2016年2月末現在で全国11カ所(約110ha)で展開しています。

セブンファームでは、イトーヨーカドー約30店舗から出る食品残さを堆肥化し、この堆肥を利用して野菜を栽培。収穫したトウモロコシや大根、ブロッコリー、人参などを近隣の店舗を中心に販売する循環型食品リサイクルを実現しています。また、これまで廃棄されることの多かった規格外品についても、加工品などとして活用することで、無駄のない効率的な販売を行っています。

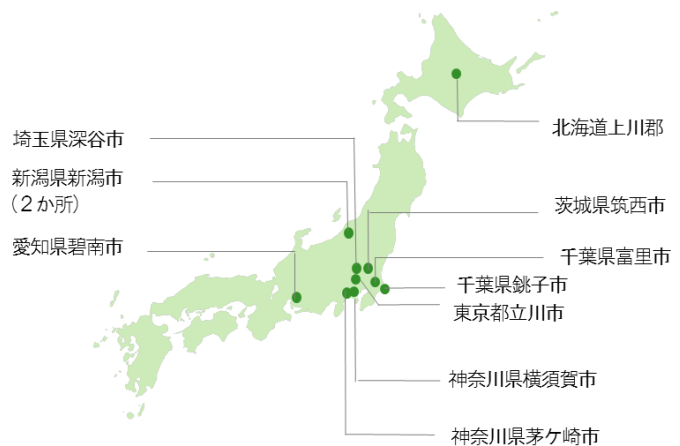
そのほか、グループ会社のセブニーイレブンのお食事お届けサービス「セブンミール」では、首都圏でセブンファームの野菜のカタログ販売を開始。セブニーイレブンでの受け取りや配達を行っています。

こうしたさまざまな環境に配慮した取り組みが評価され、一般財団法人食品産業センターおよび公益財団法人食品流通構造改善促進機構主催（後援：農林水産省）「平成25年度第35回食品産業優良企業等表彰」環境部門で、農林水産大臣賞を受賞しました。

■ 循環型食品リサイクルの仕組み



■ セブンファーム所在地



環境についての約束

店頭での資源回収

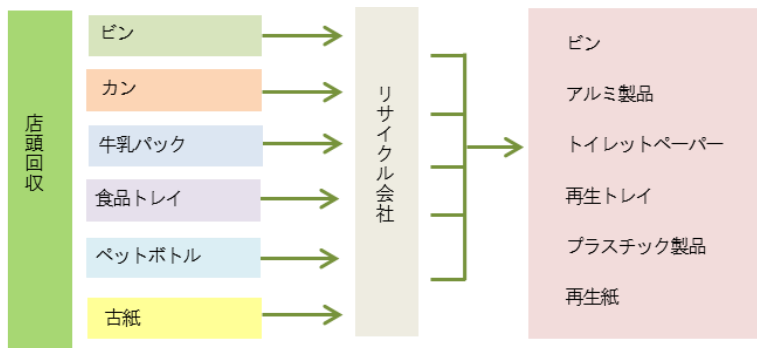
リサイクル

サプライチェーン全体で環境負荷を低減していくためには、販売した商品の空容器などを回収して再資源化を図ることも重要な取り組みだと考えています。イトーヨーカドーでは、お客様や自治体と協力し、各地域の廃棄物分類ルールにしたがって店頭でビン・カン、発泡スチロール、牛乳

パック、ペットボトルなどの資源回収に取り組んでいます。

2013年6月からは、新たに新聞・チラシ・ダンボールなどを回収する古紙回収機の設置も開始しました(2016年2月現在、40店舗)。回収した古紙は、国内で再生紙等へリサイクルされます。

リサイクルの流れ



ペットボトル自動回収機と古紙回収機を併設したリサイクルステーション



店頭回収の実績

単位:トン

	2013年度	2014年度	2015年度
ビン	1,376	2,143	2,442
カン	619	960	941
牛乳パック	291	378	380
食品トレイ	117	190	187
ペットボトル	1,780	2,679	3,349
古紙	-	3,526	6,164

環境についての約束

循環型リサイクルの促進

ペットボトルからペットボトルなどへリサイクルする循環型のリサイクルを目指して、2011年度から首都圏の店舗を中心にペットボトル自動回収機を設置をしています。

お客様が自動回収機に投入されたペットボトルは、機械の中で自動的に選別・減容され、リサイクル工場に運ばれます。そこで再びペットボトルなどに生まれ変わり、飲料の容器などとして利用され、店頭で販売される仕組みとなっており、国内で資源の循環が完結します。さらに、自動回収

機内で減容されるため、店舗からリサイクル工場までペットボトルを運搬するために必要な車両を削減できるので、運搬に関わるCO2排出量の削減にも効果があります。


2016年2月現在、133店舗に157台を設置しており、ペットボトルのキャップも同時に回収しています。40店舗では古紙回収機も併設しています。

ご協力いただいたお客様には、セブン&アイグループの電子マネー「nanaco」のポイントに交換可能なリサイクルポイントを付与しています。



ペットボトルをリサイクルしたプライベートブランド

セブン&アイHLDGS各店で回収されたペットボトルをリサイクルし、プライベートブランド「セブンプレミアム詰め替え用ボディソープ」のパッケージに使用しています。



お買い物でエコ参加
この商品の容器はセブン&アイグループが店頭で回収しているペットボトルを含むリサイクルペットフィルムを使用しています。



環境についての約束

容器包装の削減

レジ袋の使用量削減の取り組み

レジ袋の使用量削減のために、お客様へのマイバック持参の呼びかけやお買い上げ商品の量や種類に合わせた配付基準の設定、レジ袋の薄肉化などを進めてきました。

さらに、2013年2月からは、全店舗で食品売場

のレジ袋無料配布を中止し、1枚2円での販売を開始しました。

この有料化の導入にあわせて、お客様がお持ち帰りにくいお弁当などの商品については、無料サービス包材（弁当袋）を導入しています。

レジ袋辞退率の推移（食品売場）とレジ袋使用量の推移

	単位	2013年度	2014年度	2015年度
食品売場でのレジ袋使用重量(辞退率)	トン	1,321	1,268	1,210
	%	67.5	70.2	71.7

マイバック持参運動の推進

日本政府が推進する国民運動「COOL CHOICE “賢い選択”」※と連携し、レジ袋(有料・無料とも)に「COOL CHOICE “賢い選択”」のロゴを新たに掲示し、お客様へ「マイバック持参によるレジ袋削減」を呼びかけています。

※2030年度に温室効果ガスを2013年度比で26%削減することを目指し、省エネ・低炭素型の「製品」「サービス」「行動」など、温暖化対策に資するあらゆる「賢い選択」を促す国民運動



環境についての約束

食品容器包装の使用削減の取り組み

生鮮食品および惣菜の量り売り・ばら売りなど販売方法の工夫をし、容器包装使用量の削減を図っています。また惣菜売場では、コロッケ・

唐揚げなどについて、プラスチック容器を使用せず紙袋による販売も行っています。

	単位	2013年度	2014年度	2015年度
食品トレイ・容器使用量の推移	トン	2,095	2,021	2,043

食品容器包装の環境負荷低減

食品容器包装の使用削減と合わせて容器自体の環境負荷低減にも力を入れています。例えば、省資源の観点から再生トレイ※1の導入を進めています。2015年度は約600アイテムの再生トレイを採用し、使用量は前年度比110%に拡大しました。この再生トレイの導入によりCO2排出量約2,928トンの削減効果があります。

そのほか、2013年度からカットフルーツ用の容器や弁当容器などに植物由来の原料を使用するバイオプラスチック原料※2容器62アイテム（2016年2月末現在）を導入中です。バイオプラ原料容器の導入によるCO2排出量削減効果は約120トンとなります。今後も、仕入先や容器メーカー各社との共同開発・情報交換を行い、素材の見直しを通じて環境負荷低減に取り組んでいきます。

※1 再生トレイは、店頭で回収させていただいたトレイをマテリアルリサイクルした原料を使用して作られるため、バージン原料に比べて廃棄燃焼時のCO2排出量が約33%抑制される効果があります。

※2 バイオプラスチックは、原料の一部に植物由来の原料を使用したプラスチックで、従来の石油由来のプラスチックに比べてCO2排出量の削減が期待できます。



再生トレイ



バイオプラスチック原料容器